

②【決算認定議案 配布用】

予算決算委員会 社会文教分科会 座長報告

令和7年9月26日予算決算委員会後期全体会

○議案第106号のうち、社会文教分科会の分担となった部分と、議案第107号から議案第109号まで、議案第113号、及び議案第115号の経過報告

○議案第106号

「令和6年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について」のうち、社会文教分科会分担分の審査経過

○3款 民生費、1項 社会福祉費の審査

○「地域福祉推進事業」(1目 事務事業No.67)

【質疑】「説明では、地域福祉コーディネーターが地域で非常に重要になってくるということであったが、地域福祉コーディネーター設置運営事業費は、予算額7千268万円余に対し、決算額は6千778万円余であり、約500万円の残である。一方活動指標では地域福祉コーディネーターの活動件数は、計画70回に対し、実績161回であり、事業費と活動指標の整合が取れないように見える。これはどのような理由からか」

【回答】「この事業費は主に人件費であり、配属される職員の年齢や経験年数によって変わってくる。そのため、活動や認知度を上げることと事業費の増減は関連しない」

【質疑】「社会福祉協議会パートナーシップ推進強化事業費の予算額と決算額にかなりの乖離があるが要因は何か」

【回答】「この事業は市と社会福祉協議会の協定に基づく職員派遣

の経費のため、人事異動により差額が生じた」

○「社会福祉施設等支援事業」（1目 事務事業No.71）

【質疑】「説明では原油価格等の高騰に対する社会福祉施設等への支援ということだが、決算額、活動指標の実績とも当初予定を下回っているが理由はなにか」

【回答】「社会福祉施設としての事業を休止している法人がいたためである」

○「障害福祉サービス等給付事業」（3目 事務事業No.78）

【質疑】「活動指標の更生・育成・療養介護医療受給者数、補装具給付及び修理件数、地域生活支援事業受給者数 が少ない。その分析はできているか」

【回答】「医療機関や業者からの相談、また身体障がい者手帳を交付するときに受けられるサービス内容を周知している。現状分析はしていないが、注視していきたい」

○「介護人材確保対策事業」（4目 事務事業No.85）

【質疑】「介護人材の確保という課題がある中で、事務事業を構成する予算科目の予算額と決算額の乖離の要因も、人材不足によるところが大きいと認識してよいか」

【回答】「人材不足は決算額だけで表せるものではないと認識している。人材確保のため、南信州広域連合と連携する介護の仕事相談会や介護人材と法人のマッチング、職場の環境改善、介護職員の負担軽減のため介護機器導入補助などに取り組んだ」

○「高齢者等住宅改修助成事業」（4目 事務事業No.86）

【質疑】「高齢者等住宅リフォーム交付決定件数が、計画 50 件に対

し実績6件だった。このような状況から令和7年度は計画件数を10件に修正し、予算も縮小している。この事業の周知について個別に情報提供できるような取組を行うとあるがどのように行うのか」

【回答】「65歳になると要介護の資格者証を受け取ることができるため、毎月介護保険制度の概要や介護予防についての学習会を開催している。この学習会で説明をしている」

○「重層的支援体制整備事業費」（9目 事務事業No.93）

【質疑】「福祉まるごと相談窓口の相談件数が年々増えている。今後の推移と見通しをどう考えているか」

【回答】「福祉まるごと相談窓口は令和3年度に開設し、認知度が高まってきたと考えられる。この窓口は相談が主であり、解決に向け同じ相談者が複数回相談に来ることで相談件数が増加する傾向にある。相談者の課題解決に何が必要かを分析し、どう対応するか、そこをしっかりと押さえることが重要と考える」

○ 3款 民生費、2項 児童福祉費の審査

○「保育士等人材確保事業」（5目 事務事業No.102）

【質疑】「指標の民間保育所等保育士充足率と公立認定こども園保育士充足率が5年度と比較すると低いが何か要因があるか」

【回答】「公立保育園は保育家庭課で人員配置をしている。民間保育園の充足率は、どのようなサービスに対して保育士が足りていないかアンケートを取った結果で、年々保育サービスのニーズが増加するため、その部分の確保が難しいということであった」

○「結婚新生活支援事業」(1目 事務事業No.103)

【質疑】「結婚年齢が高くなってきている中で、夫婦ともに39歳以下に限定すると該当しない夫婦も増えると思うがどのように考えているか」

【回答】「この事業の目的は、婚姻数の増加及び少子化対策の推進であり、国の基準が39歳となっていることから、飯田市は国に準じた年齢設定をしている」

○「放課後こども教室設置運営事業」(7目 事務事業No.116))

【質疑】「5地区の放課後こども教室に支援を行ったというのは、放課後こども教室運営費の248万円余を5等分して支援したという認識で良いか」

【回答】「運営状況が、週に1回、月に2回、土曜日、日曜日と地区によって状況が異なるため、実際に行った回数、そこに必要な消耗品などの実績に対して支援をした」

○3款、3項 生活保護費の審査

○「福祉企業センター管理運営事業」(2目 事務事業No.121)

【質疑】「利用者数の減少傾向と福祉企業センター施設の老朽化を課題認識として捉えているが、今後の方向性や検討状況はどのようなになっているか」

【回答】「方向性や検討内容はまだ伝えられる状況にない。老朽化について6つの福祉企業センター施設の劣化調査は終了しているので今後状況分析を行いたい。利用者数の減少については、利用する方が生活困窮の方や障害のある方であり、交通の便が悪いセンターは利用困難であることを踏まえ、福祉企業センター全体の在り方について今年度方向性を出したいと考えている」

○4款、1項 保健衛生費の審査

○「がん治療助成事業」(1目 事務事業No.125)

【質疑】「補正具助成件数が計画を上回ったということは、必要とされる助成と受け止める。今後この助成事業の存在を、がんにかかっている市民の方にしっかり伝えることが必要と考えるが、どのように周知・啓発を進めていくのか。また助成を受けた方の生の声を聞いているか」

【回答】「がんにかかっている方の情報は持っていないので、現時点では市のホームページや広報でお知らせしている。助成者の生の声については、お聞きしにくいこともあり、情報収集は厳しいと考えている」

○「妊産婦健診事業」(2目 事務事業No.128)、

【質疑】「次年度への取組として、母子手帳交付時に交付している受診票や助成券を、クリアファイルに入れて渡すとあるが、このようにした経過は」

【回答】「議会から、受診票や助成券は、必要とされるときに配布した方が利用しやすいのでは、と提案をいただいた。対応を考えたが、その都度配布することは、該当する方にも負担をかけるため、クリアファイルにまとめて入れて配布すればほかのものと混ざらず、利用しやすいと考え、このようにした」

○10款、2項及び3項 教育総務費の審査

○「学校管理運営事業」(事務事業No.243)

【質疑】「次年度への取組について、教員と部活動指導員との連携体制をさらに強化させるために、部活動指導員の充足化による環境整備に取り組みます」とあるが、現状の取組は」

【回答】「今年度は部活動指導員を15名とし、さらに体制整備を

行う」

○「学校教育振興事業」（事務事業No.263）

【質疑】「6年度の取組及び次年度に向けての取組に、学校図書館の読書環境整備に向け、学校図書館システムの導入 とあるがどのような内容か」

【回答】「学校図書館の蔵書管理をシステム化するものであり、蔵書に全てバーコードを貼り、貸出、返却時にバーコードを読み取ることで蔵書管理ができ、学校図書館業務の効率化につながる」

○10 款 教育費、5 項 社会教育費 の審査

○「社会教育運営事務」（事務事業No.260）

【質疑】「この事業は、愛宕蔵の維持・管理費が多くを占めているが、内容はどのようなものか」

【回答】「愛宕蔵は、建物は市の所有であり、土地は借りている。主には借地料である」

○10 款 教育費、6 項 保健体育費 の審査

○「学校給食運営事業」（事務事業No.297）

【質疑】「給食費の物価高騰に対する補助が令和6年度 1食40円、7年度は60円と説明だった。今後の補助の見通しはどうか」

【回答】「保護者負担が大きく増えないように継続して考えていきたい」また、「来年度以降の給食費に関しては、現在国でも議論が行われていることをふまえたうえで、検討していく必要があると考える」

○議案第 109 号

「令和 6 年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について」 の審査経過

【質疑】「介護保険事業計画の介護認定者数は、令和 5 年度から徐々に増加する見込みであったが、補足資料では、令和 6 年度の要介護認定者数が令和 5 年度と比較して減少している。計画と実態に乖離があると考えるが、市として現状をどのようにとらえているか」

【回答】「9 期の介護保険事業計画は、過去の実績と令和 4 年度の実績値を元に推定値を算出した。2025 年に団塊の世代が後期高齢者になることに比例して要支援、要介護認定を受ける方も増加すると推計していたが、要介護認定は 85 歳以上の方の割合が多く、また 85 歳以上の方がお亡くなりになることがそれを上回っていることと、介護予防事業が浸透してきたことで元気な高齢者が増えてきたと分析している。」

【質疑】「第 9 期が始まって 1 年経過した。8 期終了時、令和 5 年度の繰越金が 8 億 8 千万円余、今年度繰越が 2 億 1 千万円弱であった。また、基金残高は、昨年度と今年度の積み立てで、10 億円余となった。この基金残高をどう考えるか。また、今年度以降の事業の見通しは」

【回答】「9 期の計画には施設整備が含まれている。その施設ができ、利用が始まると必然と給付費が必要になると想定している。基金残高は 10 億円余ではあるが、今現在給付費が伸びている状況であり、そういった点を注視しながら取り扱いを考えていく。来年度は、第 10 期介護保険事業計画策定となるが、現状、将来を見据えて今後の給付費がどのくら

い必要になるか、広く考えて対応したい」

○議案第 115 号

「令和 6 年度飯田市病院事業決算認定について」の審査経過

○患者数に関し、

【質疑】「患者数は減少したが、高度医療やがん治療などで収益は増加したと説明があった。このような患者が増加すると病院の利益がでるのか」

【回答】「がん治療に係る診療報酬は単価が高いため収益は上がる。ただ治療に係る費用も大きいため、利益が上がるかという
と、そこは別の話になる」

【質疑】「補足説明資料 3 ページ経営健全化に向けた取組の総論の
②人口減少と超高齢化社会における医療ニーズの変化 と
はどのようなことか。また、その下に「収入増に対しては
魅力ある病院づくり とあるが、この魅力ある病院づくり
を具体的にどのように考えているか」

【回答】「飯田下伊那地域でも人口減少は進んでいる。このことから各病院の役割も変わってくると考えている。市立病院としては、急性期の部分、救急患者はしっかり受け入れるべきと考えながら、地域状況に合わせた病院の在り方も検討していく。魅力ある病院として「魅力」という表現をしたが、地域から信頼される病院ということが一番大事だと考える。そのためには、職員の接遇からも選んでもらえる、信頼して来院してもらえる病院を作っていくと考え、そうなるための取組を進めたいということである」

【質疑】「経営安定のためには、収益をあげるための改善と費用の

抑制ということが必要と考える。昨日の補正予算案の説明でも収入部分の効率的な病床管理について説明を受けたが、人件費と材料費の高騰への対応が必要と考える。これらを抑制する具体的な取組みはあるか」

【回答】「診療材料の調達には、民間業者の支援を受けている。特に共同調達でスケールメリットを活かし、他の病院も同じ診療材料を買う場合、多くの病院が同じものを買えばスケールメリットが出て、価格が安くなる。職員では価格交渉が難しいこともあるので、そういった業者に間に入ってもらい、価格交渉を強化し、安く材料を調達することを考えている。人件費については、超勤内容など確認しながら、抑制が図れないか検討しているところである」

○議案第 107 号

「令和 6 年度 飯田市 国民健康保険特別会計 歳入歳出決算認定について」、

議案第 108 号

「令和 6 年度 飯田市 後期高齢者医療特別会計 歳入歳出決算認定について」及び

議案第 113 号

「令和 6 年度 飯田市 介護老人保健施設事業特別会計 歳入歳出決算認定について」

の以上、3 件については特段申し上げることなし